伊予漣駅　いよさざなみえき

～波濤深淵を目指した新たな時間を～

題材である「五色姫伝説」について

文治元年（1185年）栄華を誇っていた平家が滅亡して間もないころ、この浜辺に五人の美しい姫たちが小舟で流れつき暮らしていました。ある日、一番年上の姫が、砂浜をはっている「赤いカニ」を見ているうち、「赤いカニ」は平家で「白いカニ」は父・兄を亡きものにした源氏と想い込み、「白いカニ」を踏みつぶしてやろうと、四人の妹姫に探してくるよう命令しました。四人の姫たちは「白いカニ」を見つけることができなかったため、「赤いカニ」に白粉を塗って持ち帰りました。しかし姉姫に見破られ、末の姫は斬られ、他の姫たちもつぎつぎと、暗い海の底へ沈んでいったそうです。その夜、年上の姫も妹姫たちの沈んでいった海へ身を投げ、そうして亡くなった五人の姫たちが、赤・白・緑・黄・黒の美しい五色の小石となりました。このようなお話から五色浜が誕生しました。

設計主旨

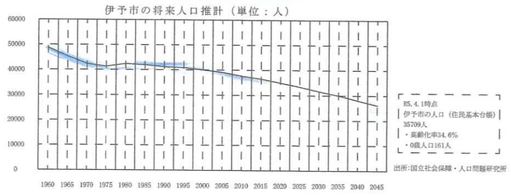
現在に至るまでに、愛媛県全体の少子高齢化と人口減少化が進んでいます。私の地元である伊予市でも、20年後には現在の約7割程度にまで人口が減少するという予測が立てられています(下記グラフ参照)。なぜ人口減少や少子高齢化が進んでいるのかを考えた結果、伊予市に来たいと思う理由がない、観光スポットとなる有名なものが少ないなと思いました。

そこで、昨年竣工したJR松山駅の「駅からはじまるえひめ時間」というコンセプトに紐付けて、地元伊予市でも活性化に繋がる「時間」が出来ないかと思いました。五色浜の由来である五色姫をコンセプトにJR伊予市駅と伊予鉄郡中港駅を合併させた大規模な駅を設計することで伊予の憩いの場となり、他県や伊予市外の方が駅を利用するきっかけとなるように考えました。そして、伊予市の新たな活性化に繋がる大きな波「波濤」、そして今までよりも交流を深く広くする「深淵」をテーマに、伊予市の交通中心拠点となる新伊予駅を設計しました。

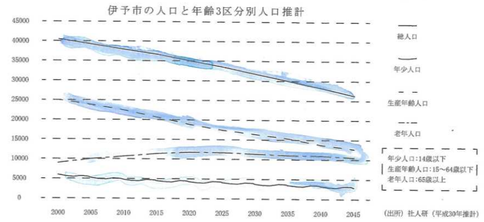
駅全体を通して、五色浜の「海」という視点から建物全体に「波」をイメージさせるような曲線を多く取り入れ、動きに柔軟性を見出し、伊予市の特色である穏やかさを視覚化しました。また、伊予市には観光地が少ないと思ったため、駅全体を観光施設とするよう様々な店舗を配置しました。駅の動線を分割するために西側伊予鉄を2階にすることで駅の西にある海への動線を確保し、東側JRを1階にすることで東にある工場地帯への動線を切るように計画しました。西側１階にコンセプトである五色姫を題材とした歴史館を設計し、市民が郷土を愛し、郷土の歴史と文化に親しみ、その知識と理解を深める生涯学習の場として活用できるようにしました。シアタールームを設けて視覚的にも聴覚的にも伊予の文化を学べるようになっています。

このような施設を伊予市に建て、地元の人たちが伊予市が好きだと言える地域に愛された建築とすることを目指しています。そして、伊予市のことを市外の方々にもっと知ってもらい、活気が溢れる地域としたいと思っています。

1. 伊予市の人口の推移及び見通し



2. 伊予市の人口の推移及び年齢3区分別人口の見通し



現状の郡中港駅と伊予市駅の状況と改善

現状

1. JRは伊予鉄に比べて便数が少なく待ち時間が多い。
2. JRは長距離の移動があるため旅の疲れを癒したい場合の休憩スペースが少ない。
3. JR伊予市駅から伊予鉄郡中港駅を利用する場合、お互いの駅が少し見えずらい。図1（１）
4. 駅同士がほぼ真正面なのに動線がジグザグになっている。図1（２）

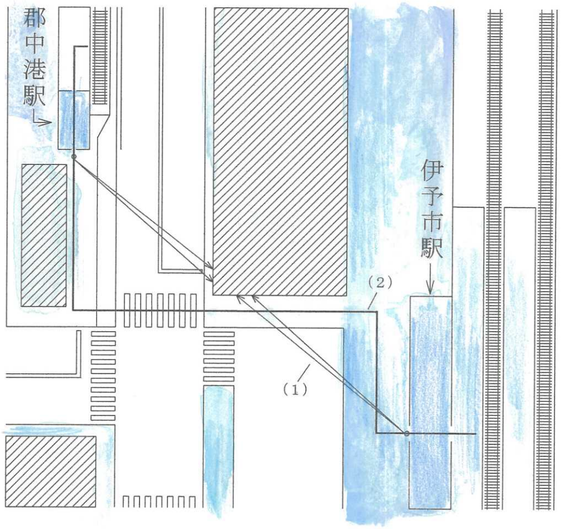


図1：現在の郡中港駅と伊予市駅の周辺

改善

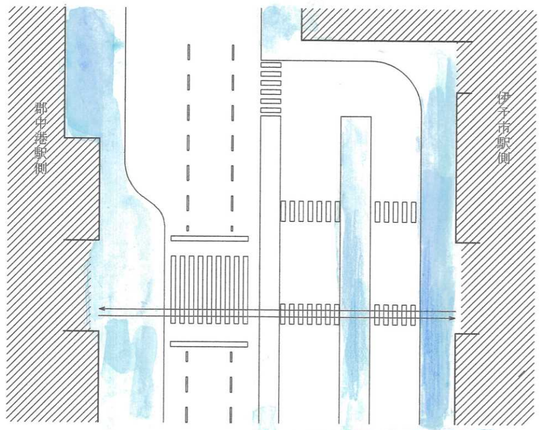


図2. 改善後の周辺状況

1. 飲食店や自習室等を設けて時間を有意義に使えるようにしました。
2. 屋上庭園や公園を設けてゆっくりできるスペースを沢山設けました。
3, 4. JRと伊予鉄を合体させた複合型施設としエントランスをお互い正面に設けました。図2

★1Fと2Fで駅のホームを分け、スムーズな動線を確保しました。図3

例：郡中港駅から伊予市駅（宇和島方面）へ乗り継ぐ場合

以前であれば歩道橋を使わないと伊予市駅（宇和島方面）のホームへたどりつけなかったが、改善後は階段を下るだけでたどり着くことができます。移動もすべて室内となっているため気温に左右されることはありません。

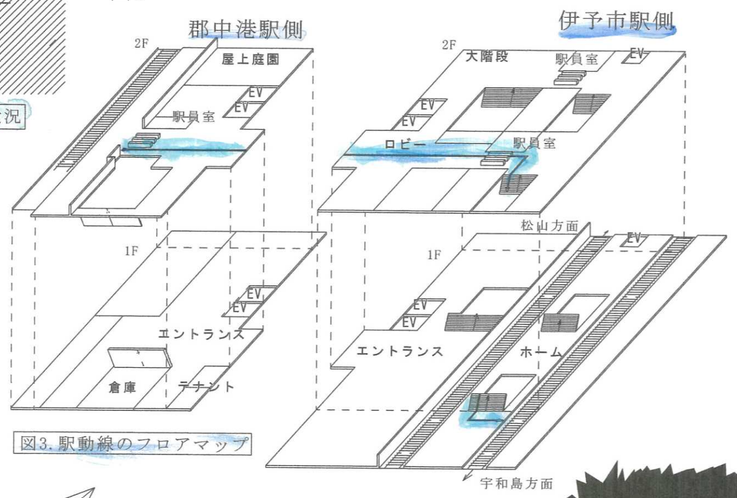
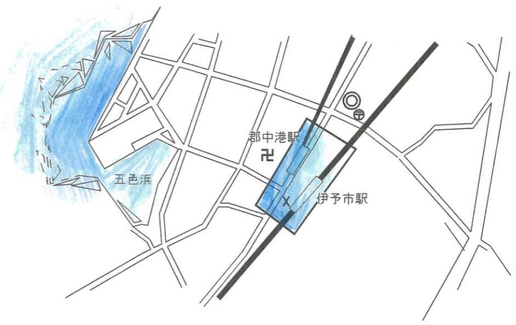


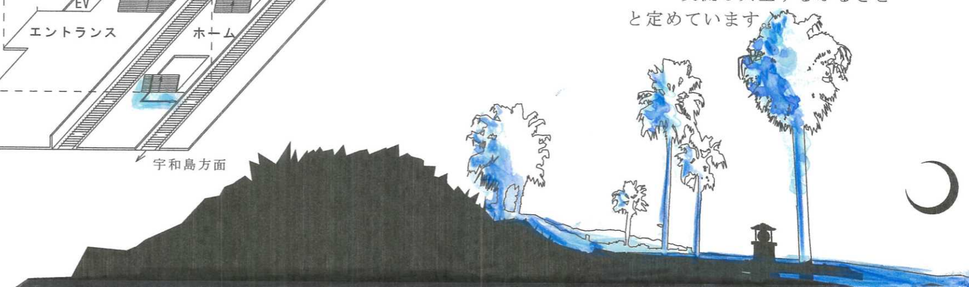
図3. 駅動線のフロアマップ

建設予定地



愛媛県伊予市

豊かな自然に恵まれ、おいしい海の幸・山の幸が沢山あります。「自立・共生・共同・交流」を市のキーワードとし、
「ひと・まち・自然が出会う郷（くに）」
～自立を目指す多様な地域が
交流し共生するふるさと～
と定めています。



歴史館

見て・聞いて・楽しむ

1. 見て

「伊予市誌」に記載されている五色姫伝説について展示しているスペースです。五色姫伝説以外にも伊予市についての歴史なども学ぶことができます。

2. 聞いて

シアタールームを通して目で五色姫伝説や伊予市の歴史を知ることができます。また、歴史について以外の伊予市の旬の情報を定期的に更新して飽きさせない工夫をしています。

3. 楽しむ

①ねがい石を使ったモノづくり

STEP1. 石を選ぶ

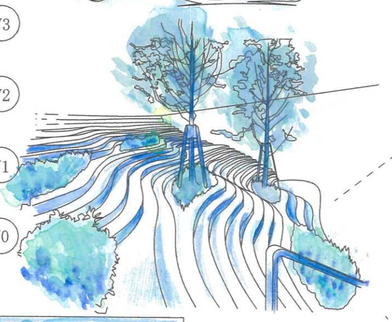
STEP2. アクセサリーやインテリアなどに加工

STEP3. 思い出としてプレゼント

②五色姫の衣装を着て撮れる撮影スタジオ&レンタル

伊予市の春の風物詩である五色姫復活祭で着ている着物を着ることができます。観光客の方々が伊予市を堪能していただけるようになっています。また、伊予祭祭りの会場からも近いため浴衣のレンタルもしています。

大階段

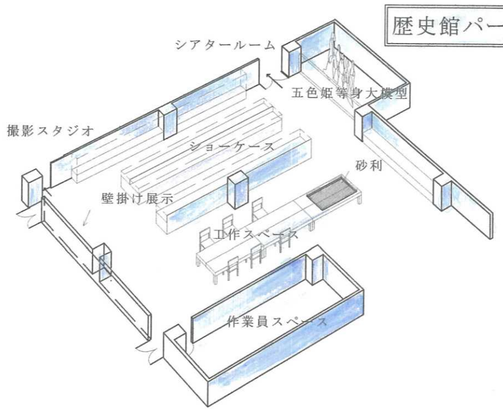


大階段のイメージ

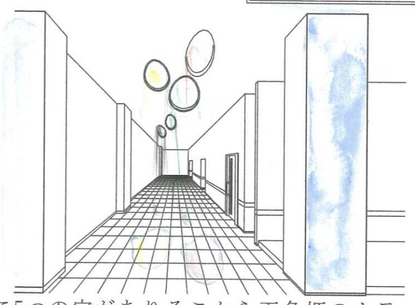
大規模な「波」をイメージした階段を設けました。緑を沢山取り入れることによって室内の空気を浄化また、社会人や学生などの方々の癒しの場となるようストレス軽減スポットとなるようにしました。

光が反射して自然光が得られる

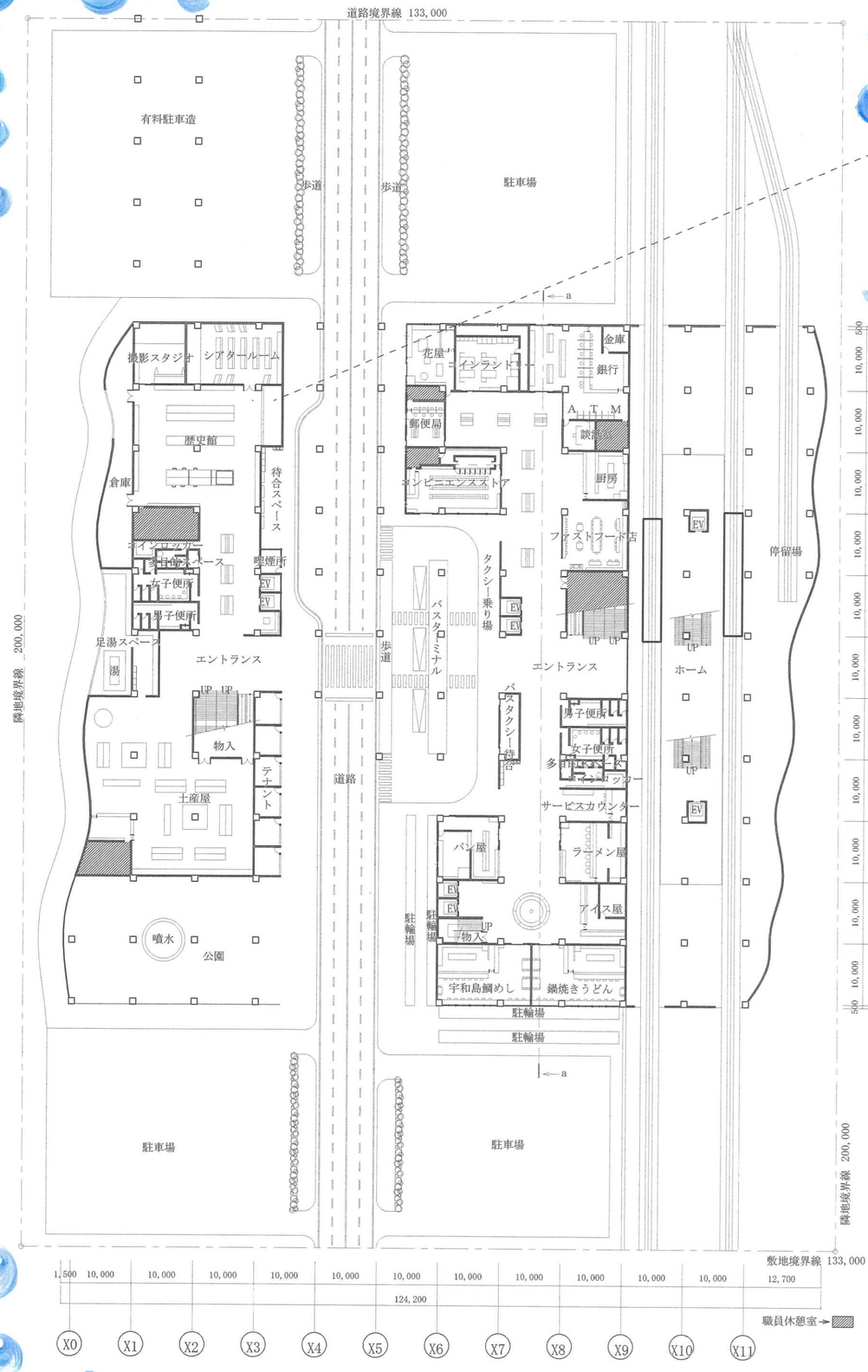
歴史館パース図



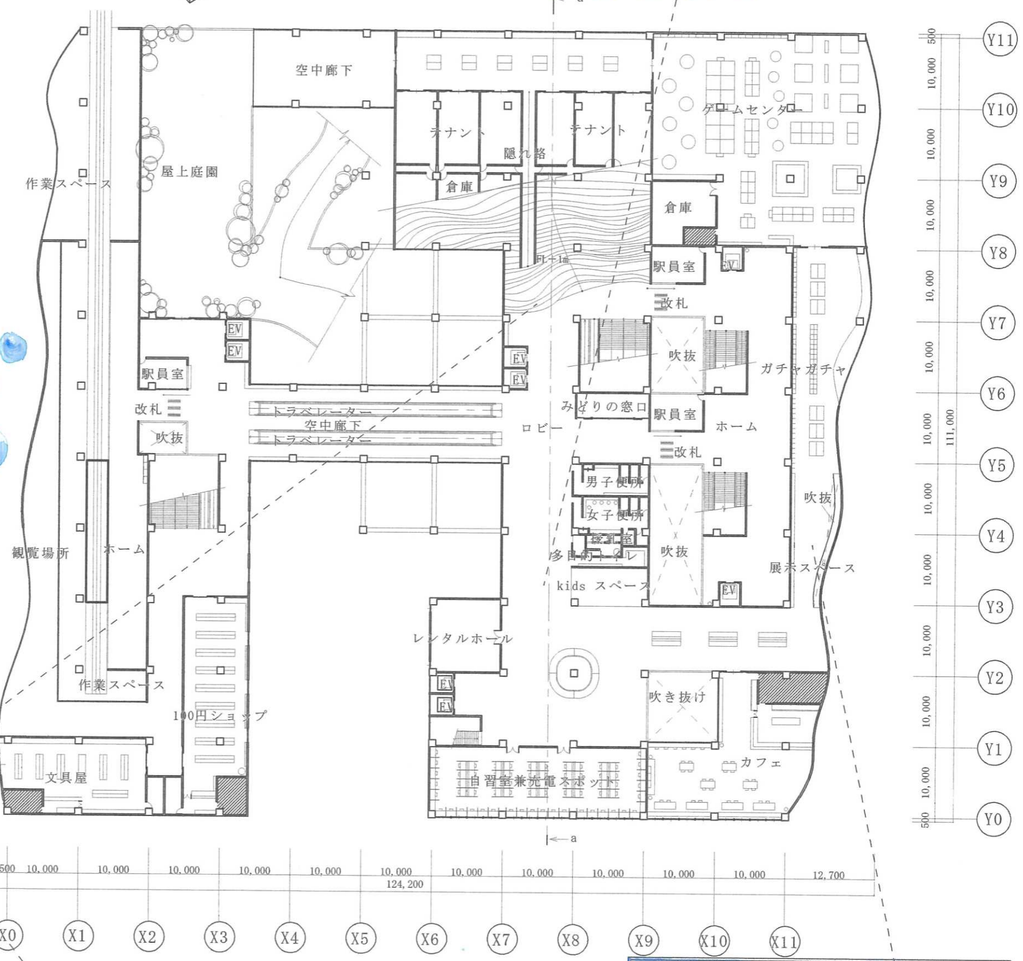
廊下に差す五色の光



天井に5つの穴がありそこから五色姫のカラーである赤・黄・緑・白・黒の光が差し込みます。



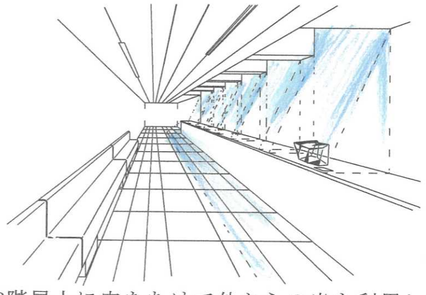
配置図兼1階平面図 S=1/600



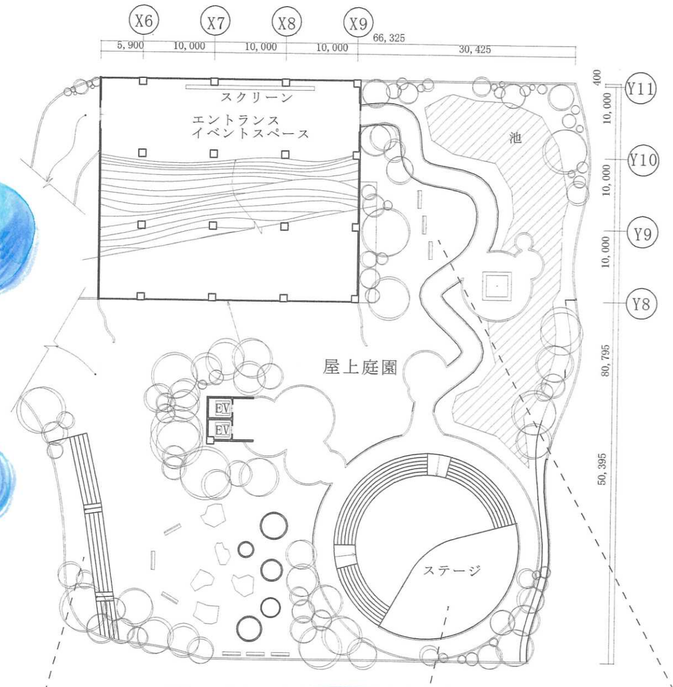
2階平面図 S=1/600

3階屋上の空いた穴から差し込む光

a-a断面図 S=1/700



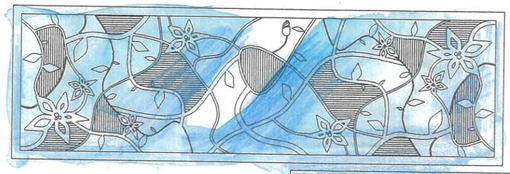
3階屋上に穴をあけて外からの光を利用した展示スペースとしました。



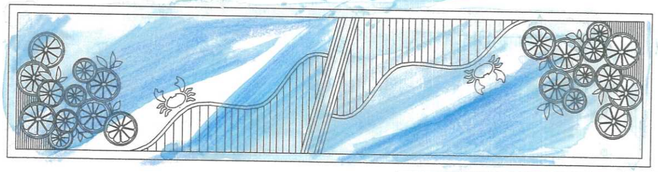
3階平面図 S=1/600

デザイン窓

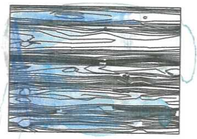
大規模な施設を設計するにあたって、窓が沢山あるので伊予を彷彿させるデザイン窓を提案しました。



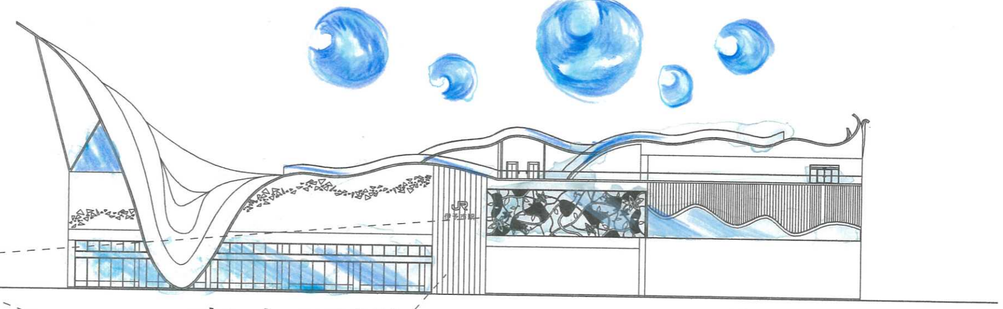
伊予の花である菜の花をイメージ



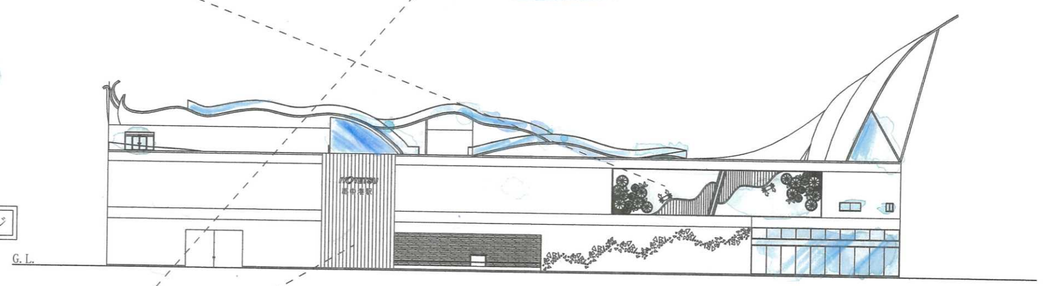
伊予柑と五色姫伝説のカニをイメージ



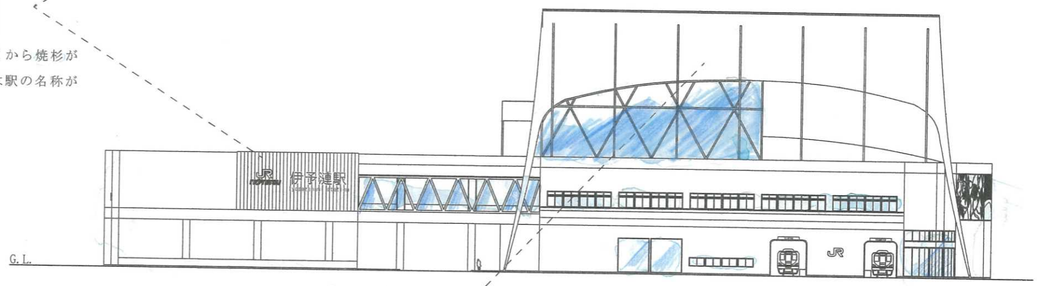
愛媛県や瀬戸内海の島々では古くから焼杉が外壁が使われているため、今回は駅の名称がある部分に用いました。



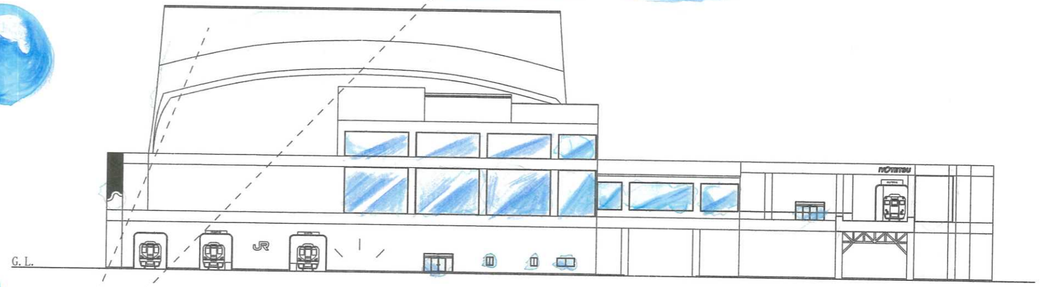
東立面図 S=1/600



西立面図 S=1/600



南立面図 S=1/600



北立面図 S=1/600

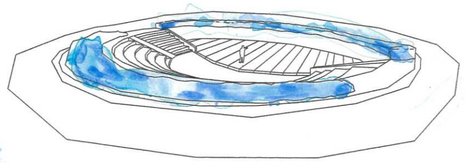
屋上庭園

ランドスケープアーキテクトデザインを取り入れました。伊予の一番の交流の場となるように3つの“見る”を提案しました。

伊予祭祭り

毎年行われている伊予祭祭りを一望することができます。

屋外ステージ



臨場感を味わうことができ、誰でも利用できるステージとしました。

池

波をイメージした道のそばに池があり、近くのベンチでことができます。

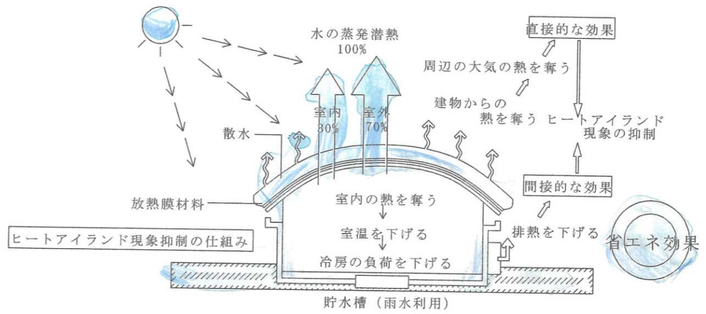
SDGｓへの貢献

省エネルギー建築の建設

ランドスケープアーキテクトを用いた建築

膜構造の屋根の利点

テーマである「五色姫伝説」の姫たちが海に沈んでいく、というのを表すために屋根を地面まで沈ませた膜構造の屋根としました。

①一般的な建築材料に比べ、大幅にCO2排出量が少なくなっています。また高透光率により、日中照明を使うのが軽減するため、電力消費も抑えることも可能です。

②日射反射率が高く日射エネルギーを天空へ反射する割合を高め熱の吸収を防ぎます。